

寒くても大盛況！高森アニメフェスタ



みぞれ降る、しんと寒いこの日、アニメフェスタと銘打ちドラゴンボールの歌でお馴染みの影山ヒロノブさん、シンガーソングライターの橋本みゆきさんたちがホットにステージを盛り上げました。

会場では、飲食店のマルシェが寒い日にはもってこいの温かい料理を提供しました。また、大きな鉄腕アトムのエア遊具には子どもたちが集まりドーム内部で飛んだりはねたりして楽しみました。

ステージで影山さんらが歌い出すと会場の盛り上がりは最高潮に。来場客は、寒さをものともせず腕まくりし、かけ声を掛けたり歌に合わせ踊ったり、思い思いに楽しんでいました。

この一年健やかに。どんどやで願う

青空と薄雪が眩しいこの日、閉校した草部南部小学校の校庭でどんどやが行われました。前日までに組まれていた竹のやぐらに酉年の年男・佐藤次信さんと年女・大内田京子さんが点火すると、パンパンと心地よく竹の弾ける音があたりに響き渡りました。どんどやは厄除けや無病息災を願い、毎年各地域で行われています。残り火で焼いた団子やサツマイモ、竹の香りが豊かな、かっぽ酒が振舞われ普段静かな校庭は地域住民の笑い声につつまれました。



高知県中学校近県錬成で白星あげる



高知県中学校近県錬成大会が1月4日（水）から6日（金）まで高知県で行われ、全国の強豪校が熱戦を繰り広げました。高森中学校剣道部は接戦を制し、見事優勝しました。

見なっせ

聞きなっせ

こぎゃんとかあったよ！

たかもりタウン TOPICS トピックス

1月7日(土)～15日(日)

あか牛を全国にアピール！



読売ジャイアンツの本拠地として有名な東京ドームで『ふるさと祭り東京 2017』が開催されました。本イベントの目玉である『全国ご当地どんぶり選手権』に高森町飲食店組合の『阿蘇炙りあか牛丼』が参戦。期間中 40 万人超が訪れた中、約 1 万食を提供しました。入賞は

逃したものの連日長蛇の列が出来、多くの来場者に柔らかいあか牛の魅力を伝えました。会場は海外からの来場者も多く、あか牛丼を撮影すると、携帯電話を使ってその場に來られない友人に向けて画像や映像を配信するという場面も見られました。

人権

人権作文紹介

高校間差別を学んで

高森高校 3年 鶴林 海翔

僕は、今年の人権学習で高校間差別について学びました。高校間差別と聞いて去年の先輩が人権集会で発表した内容から、高校に優劣をつけている差別だとなんとなく知っていましたが、詳しく覚えていたわけではありませんでした。

最初に読んだ物語では、主人公の孝子さんの親や先生が、園芸を学べる高校に行きたいという孝子さんの気持ちを無視し、高校の名前や周りの人たちの評判、偏差値の低さを理由に反対していました。僕はその場面を読んで、疑問に思いました。なぜなら僕の家では、高校進学に関して反対されることがなかったからです。高校進学については三年生になった頃に親と一緒に話をすることがありますが、自分の志望校について反対されることはありませんでした。だから僕は、自分で自分の進路を決められることが当たり前だと思っていました。そんな僕が、孝子さんの気持ちを考えてみて、「きつと悔しいと思うなあ」と想像するくらいで、反対される人が親に対してどんな気持ちを持つのかは、いまいわかりませんでしたが、一方で、子どもが行きたいという高校に行かせない親や先生の気持ちも「いい高校へ行って、苦労してほしくないという願いがあるのかな」と想像しましたが、よく

分かりませんでした。その後も、授業を受けましたが、わからないままでした。

ところが、ある日の人権学習で、自分の体験をグループ内で話す機会がありました。僕は、僕が夢にしていたゲームプログラマーになることを親に話したときに、「ゲームが好きだから、選んでいるだけだろう。」と言われて、「どうしてそんなことを言うのか」と反発したと同時に、そういう風に思われていたことが悔しくて、思わず泣いてしまったことを話しました。

すると、友達が「もっと自分の気持ちを出して、お父さんと話すべきだよ。」とアドバイスをしてくれて、少し心が楽になり、とてもうれしくなりました。その後、先生からも話があり、「お父さんは、ゲームプログラマーになりたいという、夢にどれだけ本気なのか、試したんだと思うよ。」ということとを話されました。お父さんとは、このことについて、まだ話をしていませんが、この授業が終わって、以前にうけた授業のことを思い出しました。

（孝子さんの親や先生も、幸せな人生を子どもに送ってもらいたいと思っているからこそその行動なんだ）と、考えることが出来ました。しかし、だからと言って高校を差別することは違うと思います。偏見や差別は、その高校をよく知らなかったり、その高校に通う人たちの気持ちを考えてないからこそこ起きることだと思います。もし自分が、自分の学校のことを悪くいう人がいたらきついし、悲

しい気持ちになります。そんなとき、印象に残っていた孝子さんの友達の言葉が浮かびました。（選んだ高校で、人生が決まるんじゃないって、高校に入ってから決まるのかで決まるんじゃないかな）という内容です。僕は、この言葉を孝子さんの口から孝子さんの親や先生に言えたら、わかってくれるんじゃないかと考えました。僕も、本当にやりたいことには、もっと真剣になって努力し、行動に示したいと思います。

今回の学習を通して、差別や偏見からは何の利益もうまれないと改めて思いました。そして、自分たちにまずできることは、差別や偏見について正しい知識を伝えるために、一人ひとりが真剣に勉強していくことだと思っています。しかし、正しいことを知っていても、行動できないと意味がないということも学びました。学んだことを一緒に伝えることができる仲間を大切にして、自分だけでは言えなくても、仲間を増やして声を上げていくことができるようにしていきたいと思っています。

